

学校経営目標

(1) 学校の現状と本年度の取組

令和3年度に本学第4期中期目標・中期計画の策定に合わせて附属学校園将来構想「金沢モデル」の案が策定され、附属学校園研究推進部会にコラボレーション推進室を設置し専任教員を配置した。専任教員の下、各校園からコラボレーション推進委員を選出し、附属5校園が連携して「共通研究」、「先端技術・教育データの活用」、「社会イノベーション創造授業」の分野で大学附属学校として先導的・実験的な取組を行っている。本校では、「共通研究」と「社会イノベーション創造授業」に重点を置いて、附属学校園や企業等と連携を図る。

教育・研究活動においては令和3年度に文部科学省から研究開発学校の指定を受け4年間にわたり研究開発に取り組んできた。国語科における小学校との接続の検証や自立と社会参加のための国語力の育成を目指す指導方法や教育課程についての提案を行い1つの区切りとした。今年度は、これまでの研究成果をより深化・拡大することを目指す。

また、児童生徒のキャリア発達を促すために、これまでも取り組んできた、地域の高齢者施設や保育園、地域住民との交流や協働活動は引き続き実施する。

課題として、特別支援教育において教科指導の在り方が見直される中、各教科の専科教員が揃わない本校において各教科等の指導を効果的・効率的に行う体制づくりが求められる。上述した「金沢モデル」の枠組みを活用し、他校園の教員からの学びを充実させたい。

また、教員の働き方について、導入された就労管理システムを活用し、教職員自らが効率的に業務に取り組むと共に、会議の在り方をさらに大胆に見直したり書類の見直しやペーパーレス化を図ったりして、さらに改革を進める。

保護者会（育友会）の役員の選出が難しくなる中、育友会理事会で協議を重ね役員選出方法の改正を行った。時代が変化する中で育友会組織や活動の在り方を常に見直していく。また、新型コロナウイルス感染症による行事等の精選を今後も継続していく。

① 教育研究等

令和3年度に文部科学省研究開発学校の指定を受け、「自立と社会参加のための国語力を育む教育課程の探究」を主題とした研究開発に取り組んだ。小学校等と特別支援学校との間の学びの連続性の確保に向け取り組んだ成果を今年度以降、いかに具現化し継続していくかの方向性を定める年になる。指導方法及び学習評価の在り方に加え、知的障害のある児童生徒の学習上の特性等や発達段階、生活年齢を踏まえた対応について具体的に提案していく必要がある。また、これまでの研究の取組を学会における発表などを通して、積極的に情報発信していく。

② 教員養成等

本校は学校教育学類の教育演習や基礎実習、教職大学院の学校実習等に協力しているが、令和4年度より人間社会環境研究科人文学専攻公認心理師養成コースの学生の実習受け入れを行っている。

本年度も基礎演習生（2年生）、教育実習生（4年生）、養護教諭実習生（別科）、教職大学院生（現職教員）、公認心理師実習生（4年生、大学院生）学校インターンシップ（2年生）、介護等体験を受入れる予定である。

③ 児童生徒の確保と入学者選考

ここ数年、定員を充足していない状況が続いている。特別支援教育を希望する児童生徒が増えていると各方面で報道されている中、由々しき状況にあると考えている。児童生徒・保護者の多くから選んでもらえる学校にすることは急務である。本校の良さや魅力が十分に広報されていない実態もあるため、あらゆる機会を生かし、児童生徒の協力も得ながら学校PRに努める。

④ 安全安心の学校づくり

学校、育友会、後援会が連携して防災委員会を設置し防災対策に取り組んでおり、毎年各部で防災学習に取り組むと共に学校防災委員会を実施主体にして防災研修会を実施している。震災時の対応マニュアルは改善途中であり、今年度も継続して実際のマニュアルの改善に取り組む。

⑤ 学校運営

教育課程委員会と教務課を中心に、学習指導要領に対応すると同時に大学附属学校として、バランスの取れた、かつ先導的・実験的な特色ある教育課程の編成に取り組む。また中学部・高等部主事を中心に中学部・高等部6年間で生徒を育成する教育課程及び各教科等の効果的・効率的な指導体制の検討・実践に努める。

学校研究は引き続き全教員で取り組むプロジェクト型とし、研究を充実推進する。

附属学校園将来構想「金沢モデル」は金沢大学第4期中期目標・中期計画や学長の大学改革プランにも明記されており、学部を問わず、学校内に閉じこもることなく、「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組む。

（２）今年度の重点目標と取り組み（短期目標）

- ① 研究開発学校の指定の成果を確実に具現化し、その成果を発信する。（学校研究プロジェクト）
- ② 学習指導要領に対応し、かつ大学附属学校として特色ある教育課程を検討する。
(教育課程委員会、教務課、各部)
- ③ コラボレーション推進室を活用して附属全学校園との共通研究(交流体験)を充実する。(各学部)
- ④ いじめアンケートの定期的な実施や定期的な安全点検等を確実に実施し、人的・物的両面からの安全安心な学校づくりを推進する。(指導課)
- ⑤ ペーパーレス化を推進する。(情報総務課)
- ⑥ 「学びの個別化」教室(仮称)を平和町キャンパス内に設置し、学びづらさ生きづらさを感じている園児・児童・生徒を支援することでセンター的機能を果たす。(相談支援担当者会)
- ⑦ 進路指導分野で大学との連携を強化する。(進路担当者会)

（３）学校評価計画

学校と保護者、関係者、地域住民が、児童生徒の実態や学校の現状と課題を共有化することを主旨に学校自己評価を実施する。評価の信頼性を向上させるために学校評議員会を開催し常に学校改善に努める。